

緒 言

2020・2021 年度代表幹事 三山雅子

『経済社会とジェンダー』を今年も無事に発行することができました。本号で学会誌も第7号を迎えます。このように着実に学会誌の発行を続けていくことができたのは、ひとえにお忙しい中、投稿くださった方々や編集業務を担っていただいた会員のみな様方のおかげです。ここで会員のみな様のご尽力にあらためてお礼を述べたく思います。

この2年間は本学会もコロナに対処することに追われた2年間でした。オンラインでの幹事会の開催に始まり、学会大会もこの2年間は Zoom 開催でした。オンラインという直接会うことがかなわない形での大会を経験したからこそ、直接会って話すことのなにもにも変え難い大切さを感じた2年間でもありました。まだまだコロナの終息は見通せません。しかし今年こそは直接会員のみな様とお会いして、忌憚なき議論を交わすことができるよう願っております。

本号の特集テーマは、このコロナとジェンダーの関係を考察した「コロナ災害があらわにした女性のいのちとくらしの課題」です。日本社会は、世界経済フォーラムが発表しているジェンダーギャップ指数が156カ国中120位(2021年)であることに象徴されるように、女性を劣位におく傾向がきわめて強い社会です。本号の特集は、こういった社会構造こそが自然災害を増幅し、社会において脆弱な位置におかれた女性に強い負の影響を与え困難な状況に女性を追い込み、女性不況 She-Cession という社会状況を作りだしたことを多面的に解明しています。また、研究ノートはジェンダーと政治をめぐって合理的選択制度論をフェミニズムおよびジェンダーの視点から問い直したもの、移住女性労働者の権利回復の回路を取り扱ったものが収録されております。本号掲載のいずれの論考も、今、わたしたちが直面している問題に向き合った力作です。ぜひ多くの方々に読んでいただけるよう祈念しております。みな様との再会を切に願って。